

# 9月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和4年9月末現在〕

令和4年10月13日  
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全てで改善した。

業種別では、製造業は「景況」、「売上高」、「収益状況」全てで改善した。非製造業は「収益状況」は改善したが、「売上高」、「景況」は変化なしであった。

原材料高・燃料高等によるコスト高の状況で、一部では販売価格に転嫁する動きが見られ、収益状況は改善しつつある。しかし、全体としては販売価格への転嫁について苦慮しており、今後の更なる原材料等の価格上昇による経営悪化を懸念する声もある。

## 景況DI

製造業は、前月比19.2ポイント改善の▲23.1ポイント、非製造業は前月比増減なしの▲33.3ポイント、全体では、前月比10.0ポイント改善の▲28.0ポイントとなった。

## 売上高DI

製造業は、前月比7.7ポイント改善の0.0ポイント、非製造業は、前月比増減なしの12.5ポイント、全体では、前月比4.0ポイント改善の6.0ポイントとなった。

## 収益状況DI

製造業は、前月比26.9ポイント改善の▲23.1ポイント、非製造業は、前月比16.7ポイント改善の▲25.0ポイント、全体では、前月比22.0ポイント改善の▲24.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	学校給食パン	前年9月は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い夏休みが9月に入っても延長する形で休校措置が取られたが、今年は休校もなく稼働が順調である。	
	味噌	コロナ禍の影響、原油価格の高騰、急激な円安進行、ウクライナ情勢等の様々な要因により、原材料価格が高騰している。原料に使用する塩やアルコール等については、今年に入り2回目の価格引き上げ要請が来ており、令和3年9月時点との比較では、塩が+46.8%、アルコール+44.8%と値上げ幅は4割以上となっている。しかし、一般消費者向けへの販売価格への転嫁は難しく、収益性や資金繰りに影響が出ることは必須。	
	清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県8月の清酒課税移出数量は、前年同月比120.7%であった。本格焼酎については、前年同月比170.9%であった。増加率だけ見ると好調に見えるが、昨年8月の落ち込みが非常に大きかったことによる増加で、厳しい状況に変わりはない。清酒でみてもコロナ禍前の3年前に比べて81.5%であり、まだまだ回復には程遠い。清酒の輸出については、地域や企業間で温度差があるもののコロナ禍で国内マーケットが不安定の中、輸出に注力し、令和4年7月の前年同月比輸出数量(全国ベース)は、110.5%であった。全国ベースでは好調であるが茨城は輸出に注力している蔵元が少なく、輸出増強は今後の課題である。 ○県内当業界について 日本酒を取り巻く経営環境は、コロナ禍により依然厳しいが、感染を恐れて何もしないと座して死を待つ状況になるので、感染に注意してwithコロナで営業・情宣活動を行っている。組合でのイベントも10月1日に3年振りに水戸芸術館広場にて「茨城地酒まつり」を開催してPR活動を行った。	
	納豆	先月同様に、一般消費者向けの商品を主力としているメーカー(組合員)は、売上や収益等が安定的な組合員と下がっている組合員に分かれている。また、土産品向け商品のメーカーは先月のお盆や夏休み需要後は売り上げが低迷しているが、それはコロナ前と同様の季節的要因(閑散期)の範囲内かもしれない。また、懸念されることは電気代、ガソリン代なども含む原材料価格や人件費の高騰を吸収しきれないと言う事であり、値上げの機運が業界全体としてより高まってきている。更には、第7波以降、政府は感染対策として、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言等公的抑制を行わずに社会経済活動を維持する方向にシフトしてきており、それ自体は経営的には歓迎できるものの、もし従前よりの感染対策、例えば国民の行動変容やワクチン接種率の向上などのモチベーション低下による許容範囲を超えるような感染増加や、或いは、これまでの国民の感染対策では対応できないような新しい事態が発生した場合、発生届の限定化と相俟って、精緻な公的感染対策が取り難い、或いは対策が後手に回る可能性も懸念される。その場合の社会混乱とそれに伴う経営環境の悪化の可能性もあるが、一方でそれが起きない両極端のシナリオも存在し得ることを考慮すると、特に資金繰りや人材確保の是非など複合的に経営判断に悩むところである。	
	菓子	和菓子の主原材料である餡の大幅値上がり、その他の原材料高、そして経費高、製品の値上げは必要であるが、どこまで値上げをするべきか。	
	漬物	全ての物が値上がりしており、コストアップした分の価格が転嫁できておらず、経営を圧迫している。	
	繊維工業	袋物	ここにきて初めて新型コロナウイルス集団感染による、一時的に休業の事業所が発生した。仕事量に関しては、コロナ禍前の水準に戻った感じがする。円安の影響なのだろうか。
		衣服	円安、中国ロックダウンの影響により、国内生産が増加している。
	木材・木材製品	製材	・構造材、羽柄材は、先月に引き続き桧・杉とも荷動きは全般的に緩慢で、価格は弱含み(相場が下がりが気味)で推移した。 ・造作材は、荷動きが停滞している。 ・輸入材は、価格は全般的に弱保合。 ・原木の入荷は順調だった。価格については、杉は横ばいだったが、桧については保合。
		県北地区プレカット	9月は加工目標の90%を加工出来た。資材関係は少し値戻し(上がった状態から少し下がった)になり、納期も以前ほど日数を要しなくなった。ただ、10月の加工予定が入っておらず、先が見えない。
県央地区プレカット		9月は加工量も多く忙しい月となった。木材入荷状況も加工スケジュールに影響が出るほどのずれ込みはなく、現在は解消されている。見積件数はまだ少なく、今後の加工物件について先行きは不透明な状況。	
紙・紙加工品	段ボール	様々な物が値上がりしたせいか、お客様の製品等の動きが悪く、それらを入れる段ボール箱の生産数量が前年同月と比べると悪い。電気・ガソリン・資材等が値上がりしている分、収益が悪化している。そんな中、再度の主原料のさらなる値上げ要求が来ており、今後の会社運営が心配される。	
印刷	総合印刷	新型コロナウイルス感染症による行動制限が解除され、コロナ禍前の経済活動に戻つつあるものの、当業界においては、発注者側の支払いサイトが長くなる等の取引条件の悪化により、資金繰りの厳しい状況が続いている。	
化学・ゴム	自動車部品	組合員の中には、業況が好調なところも一部あるが、全体としては厳しさが増している。特に、取引先の業務縮小による売上高の減少が激しい。	
窯業・土石製品	陶磁器	今年の夏は特に暑かったが、ここに来て急に冷え込むようになった。秋のイベントの時期を迎え、人や物の流れが目立つようになったように感じる。	

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	鉄鋼・金属 鉄鋼	前年が低調だったため、売上は前月同様、前年同月比で10~15%増加した。9月は受注量が増加し、設備の操縦度も上昇した。業種別では建築資材関係・半導体製造設備を含む機械部品・その他の取引先業種について受注が好転したが、自動車部品関係では受注が低迷している。製造単価についても、各社値上げ交渉を行い、全部ではないが一部については値上げがされている状況である。金属材料は全ての金属が値上がりしている。工業薬品についても値上がりしたまま高値状態である。石油製品についても、高値が続いている。
	一般機器 生産用機械	対象7組合員(製造会社)の売上状況は前年同月比で、5社増加で2社減少であり、全体増減率は116%であった。4月以降減少していた主要取引先からの受注は、先月に続いて増加。2か月連続の増加となった。組合員企業では、正社員数は変わらないが、派遣社員数が増加している。
	輸送用機器 県北地区自動車部品	生産高は昨年、一昨年よりも上向き傾向にあるが、未だコロナ禍以前の数値には達していない。
卸売業	水産卸	精算所取扱高は前年同月比7.38%増加した。先月同様、販売単価の上昇が続いているのと、新型コロナウイルスの感染状況が多少改善されている事で、取扱金額は前年同月を上回っている。取扱数量については、少ない状況が続いている。市場内の水産卸業者2社による年末商品展示会を2年ぶりに10月13日に開催、年末に向けて期待を寄せている。また、当組合運営の冷蔵倉庫については、電気料金の上昇が続いており、厳しい状況である。
	セメント卸	県内の建設工事は南部地区で旺盛に推移しているが、袋セメントの需要は限定的。そのような中、当月の袋セメントは10月出荷分からの値上げを見据え一部に駆け込みの需要がみられ、前年同月比123%の実績となった。
非製造業	県北地区共同店舗	売上は前年同月比116%、客数は同111.6%であった。前年同月の売上を確保できた店舗は84.6%となったが、プレミアム付き商品券の影響が大きいと感じている。10月1日~14日までの商品券の2次販売も行われている。
	県央地区共同店舗	館全体の既存店と新店(雑貨店1店舗、アミューズメント1店舗)の売上(客数)は前年同月比で91%(88%)となり、前年同月より減少した。主要業種では、食品86%(87%)、飲食94%(96%)、ファッション106%(91%)となり、前年同月比で食品を中心に全体的に売上・客数共に減少となった。前年は9月から笠間市プレミアム付き商品券の発売及び利用があり売上が好調だった事と、週末の台風でお客様の来店が少なかった事が売上減少の要因と思われる。10月より笠間市子育て・教育支援プレミアムeチケットの利用が開始となった。市内で行政主催のイベントが複数開催されるので、来店客の増加に期待している。
	県南地区共同店舗	サービス業種でやや盛り返して来たものの、全体の入店客状況は良くない。小さいながらもイベント、催事を開催し何とか客数増に取り組んだ。夏場の空調等の光熱費が今月くらいから響き出していて、資金繰りがかなり厳しい。電気代で前年同月比150万の増、重油代で同じく70万の増。(5月~8月対象)既存店の売上は前年同月比で、全体100.8%、衣料99.0%、文化品53.3%、食料品99.0%、飲食103.6%、サービス106.9%であった。
	家電	9月の販売面はコロナ禍の影響が続いているが、残暑が続き、エアコンなどの夏家電は売れ続けていた。今後は各社の製品と電気代、ガス代など社会インフラ関係の値上げが続く。その中で限られた家計の中でお客様が家電品に費やしてくれる取組が必要となる(客づくりの基本の再確認)。
	燃料小売	原油価格の高止まりや円安の影響でガソリン等の販売価格等は依然として高いが、政府の燃料油価格激変緩和策によって、価格は抑えられている。9月は天候も良かったこともあり、販売数量は前年よりも増加した。政府の燃料油価格激変緩和策が年末まで延長となったが、この先の原油価格の動向を注視していく必要がある。
	中古自動車	販売台数は前年同月比83.2%と2割近い落込みとなったが、販売価格が同111.4%と大きく上昇したため、売上高は同92.7%と1割弱の減少に留まった。部品供給不足や世界情勢不安などの要因が重なって、メーカー各社の生産調整が続いており、流通車不足による価格高騰が販売価格の上昇を引き起こしている。
	食料品	当業界は食品流通業であり、組合員の売上に関しては、コロナ禍の中で食のライフラインを担っている。9月は残暑が続き、売上の増加も期待されたが、前年同月比97%と厳しい結果となった。要因として、各メーカーからの食料品の値上げが、9月1日から多くあり、店頭でも商品売価の値上げを実施し、お客様の買い控えの影響があったと考えられる。10月については、9月以上に値上げ商品があり、厳しい状況が続くが、この困難を乗り越えられるようにしていく。新型コロナウイルス感染者が高止まりの状況ですが、今後も来店客に安心・安全な店であるように、新型コロナウイルス感染対策は万全に行っていく。
	野菜・果実	9月の取扱高は野菜果物合計で前年同月比100.9%の取扱高となった。野菜に関しては、昨年と比べると目立った大雨や台風も少なく、全体的に順調な出荷となった。果物に関しては、梨の販売が最盛期を迎え、品種も幸水から豊水、あきづきへと移行変わり、小玉傾向だったのも少しずつ大玉傾向へ移った。また、水戸市場の主力商品とも言えるサツマイモの収穫が始まり、サツマイモを中心に取引扱う組合員の取引が活発になり始めた。
商店街	水戸 筑西	原材料等の仕入値が上がっている。 新型コロナウイルス、物価上昇、円安等で最悪の状況である。
サービス業	自動車整備	当月の組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で自動車・軽自動車ともに横ばいであった。
	ホテル・旅館	9月は例年観光需要が落ち着く時期となるが、新型コロナウイルスの感染第7波が収束に向かったこと、県民割が期間延長されたこと等が効果を上げ、これを利用した観光宿泊客が大きく途切れることなく、観光客・ビジネス客ともに比較的回復基調を維持している。一方、水道や電気・ガス等エネルギー価格、食材等の高騰や円安物価高によるコスト増が大きな懸念材料となっているが、これらの価格転嫁の判断を見極めかねている施設も少なくない。また、雇用については従業員を募集しても思うように集まらず、予約が入っても稼働できない部屋が出てきている状況も生まれてしまっており、調理職ではさらに確保が難しい状況となっている。

報告者名  
報告年月

茨城県中小企業団体中央会

令和4年9月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非 製 造 業	建設業	総合	資材価格が上昇し設計価格の修正が追いつかない状況である。役所の設計積算に時間がかかるほど実施時期の資材単価のずれが生じる。資材単価の上昇と安値受注競争が続いて利益が大きく減少している。
		県北地区管工事	9月からの仕入先からの原材料値上げ要請に対して、一部の原材料について猶予期間を置き、組合員への販売価格について、塩化ビニル物は11月、銅関係については2月からの値上げで決定した。上げ幅はそれぞれの原材料について異なるが、15～30%の値上げとなる。
	運輸業	軽貨物運送	当月の組合員数は110名、車輛台数は141台で前月と比較して1名と1台の増加であった。また、運送売上高については、前年同月比122.8%と増加であった。全国連合会での当月の組合員数は6,885名、車輛台数8,157台で前月と比較して19名減少、28台減少であった。
		県北地区一般貨物	主要顧客の出荷物量に関して、8月と比較すると出荷物量は増加したが、前年同月比でほぼ横ばいであり、売上高もほぼ横ばい。燃料価格は、高値安定しており収益は厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食 料 品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食の回数増加を要望。
	納豆	雇用調整助成金の特例措置の必要性は以前に比べれば重要性は低下したものの、今後の感染状況と経済活動の先行きが不透明である以上、やはり継続して要望したい。また、同じくこれまでの飲食店などに対する時短要請に起因して間接的に土産品業界に生じた、社会的に忘れられてきた不利益に対する補償としての格別の手厚い支援金を引き続き要望したい。更に、同じく振興策としての県民割やGOTOトラベルの様な制度は、感染状況との兼ね合いがあるだろうが、引き続き積極的な取り組みを期待する。これらの措置を感染状況による経営環境の不安定性に対するスタビライザーとして複合的に運用されることを期待する。また、原材料価格高騰の緩和策と資金繰り改善の為の公的助成等も期待されるところである。
	漬物	エネルギー関係の値上がり幅が大幅であり、それに対する支援を要望する。
小 売 業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事例を教えて欲しい。
	燃料小売	・揮発油税に課税している二重課税の廃止 ・新型コロナウイルス対策
建設業	総合	入札告示直前に資材単価の再確認をお願いしたい。発注工事において単価スライド（工事材料の価格に著しい変動が生じ、請負代金額が不相当となった時に、請負代金の変更を請求できる措置）ができない場合は特にお願したい。

月次景況調査 9月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	9月	8月	前月比	9月	8月	前月比	9月	8月	前月比
景 況	▲ 28.0	▲ 38.0	10.0	▲ 23.1	▲ 42.3	19.2	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0
売 上 高	6.0	2.0	4.0	0.0	▲ 7.7	7.7	12.5	12.5	0.0
収 益 状 況	▲ 24.0	▲ 46.0	22.0	▲ 23.1	▲ 50.0	26.9	▲ 25.0	▲ 41.7	16.7
販 売 価 格	36.0	26.0	10.0	23.1	7.7	15.4	50.0	45.8	4.2
取 引 条 件	▲ 18.0	▲ 18.0	0.0	▲ 23.1	▲ 23.1	0.0	▲ 12.5	▲ 12.5	0.0

# 中小企業月次景況調査(令和4年9月)DI値(前年同月比)

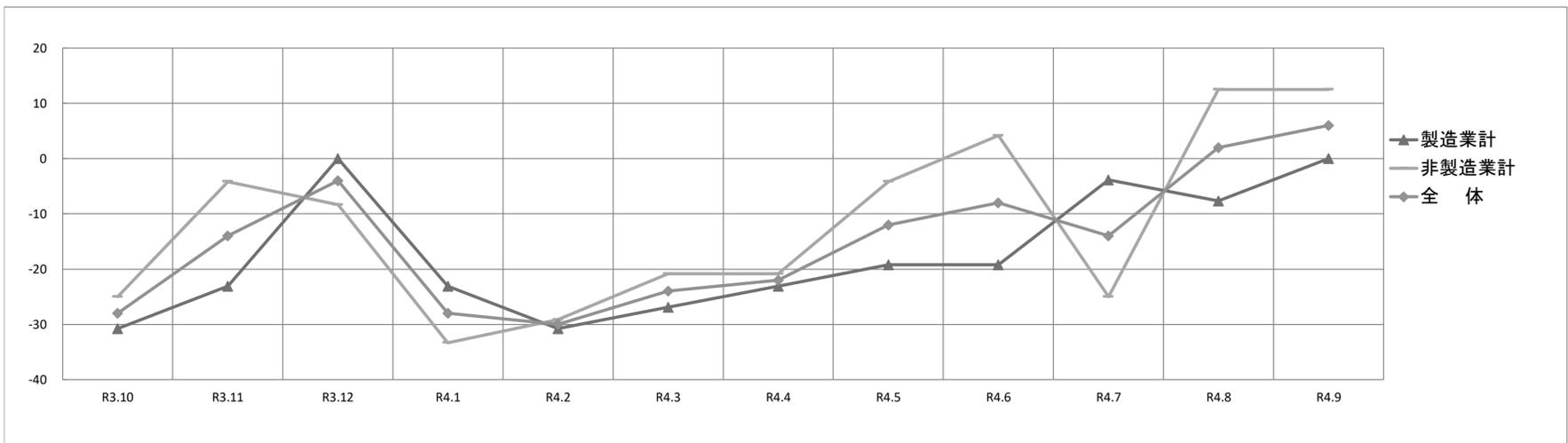
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況													
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)														
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数							
製造業	食料品	△ 33.3	1	2	3	6	0.0	1	4	1	6	33.3	2	4	0	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 66.7	1	0	5	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 33.3	1	2	3	6	△ 16.7	1	3	2	6	△ 33.3	0	4	2	6
	繊維工業	33.3	2	0	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	木材・木製品	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 20.0	1	2	2	5	0.0	0	5	0	5	60.0	3	2	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0	1	2	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	1	2	2	5
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	66.7	2	1	0	3	0.0	1	1	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	33.3	1	2	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
製造業計	0.0	9	8	9	26	3.8	4	19	3	26	23.1	7	18	1	26	△ 23.1	0	20	6	26	△ 23.1	5	10	11	26	△ 26.9	2	15	9	26	△ 7.7	4	16	6	26	0.0	2	22	2	26	△ 23.1	2	16	8	26	
非製造業	卸売業	66.7	2	1	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	66.7	2	1	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3
	小売業 (商店街含む)	△ 8.3	4	3	5	12	8.3	1	11	0	12	41.7	5	7	0	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	1	7	4	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 25.0	0	9	3	12	△ 16.7	0	10	2	12	△ 50.0	0	6	6	12
	サービス業	50.0	1	1	0	2	X				50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2	0.0	1	0	1	2	
	建設業	0.0	1	3	1	5					60.0	3	2	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 40.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	3	2	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	
	運輸業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	
	非製造業計	12.5	9	9	6	24					△ 6.7	1	12	2	15	50.0	12	12	0	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 25.0	2	14	8	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 33.3	1	14	9	24	
全体	6.0	18	17	15	50	0.0	5	31	5	41	36.0	19	30	1	50	△ 18.0	0	41	9	50	△ 24.0	7	24	19	50	△ 24.0	2	34	14	50	△ 7.7	4	16	6	26	△ 10.0	2	41	7	50	△ 28.0	3	30	17	50	

## D I 値推移表 (R3. 10月 ~ R4. 9月期)

### 《売上高の推移》

前年同月比	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	▲ 10.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 10.0	10.0	0.0	10.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 23.1	0.0	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 19.2	▲ 19.2	▲ 3.8	▲ 7.7	0.0
卸売業	▲ 100.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0	66.7
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	0.0	▲ 16.7	8.3	▲ 8.3
サービス業	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
建設業	40.0	40.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 40.0	20.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0
運輸業	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 4.2	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 4.2	4.2	▲ 25.0	12.5	12.5
全体	▲ 28.0	▲ 14.0	▲ 4.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 24.0	▲ 22.0	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 14.0	2.0	6.0

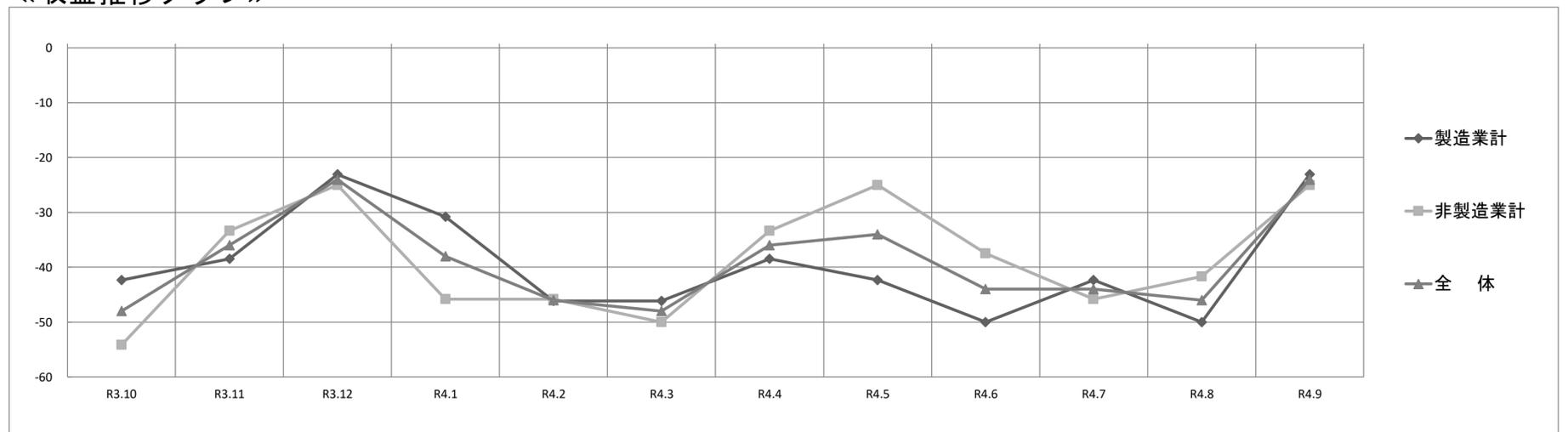
### 《売上高推移グラフ》



### 《収益の推移》

前年同月比	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 10.0
製造業計	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 23.1
卸売業	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 58.3	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 25.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	0.0	0.0
建設業	0.0	40.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 54.2	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 45.8	▲ 45.8	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 41.7	▲ 25.0
全体	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 24.0	▲ 38.0	▲ 46.0	▲ 48.0	▲ 36.0	▲ 34.0	▲ 44.0	▲ 44.0	▲ 46.0	▲ 24.0

### 《収益推移グラフ》

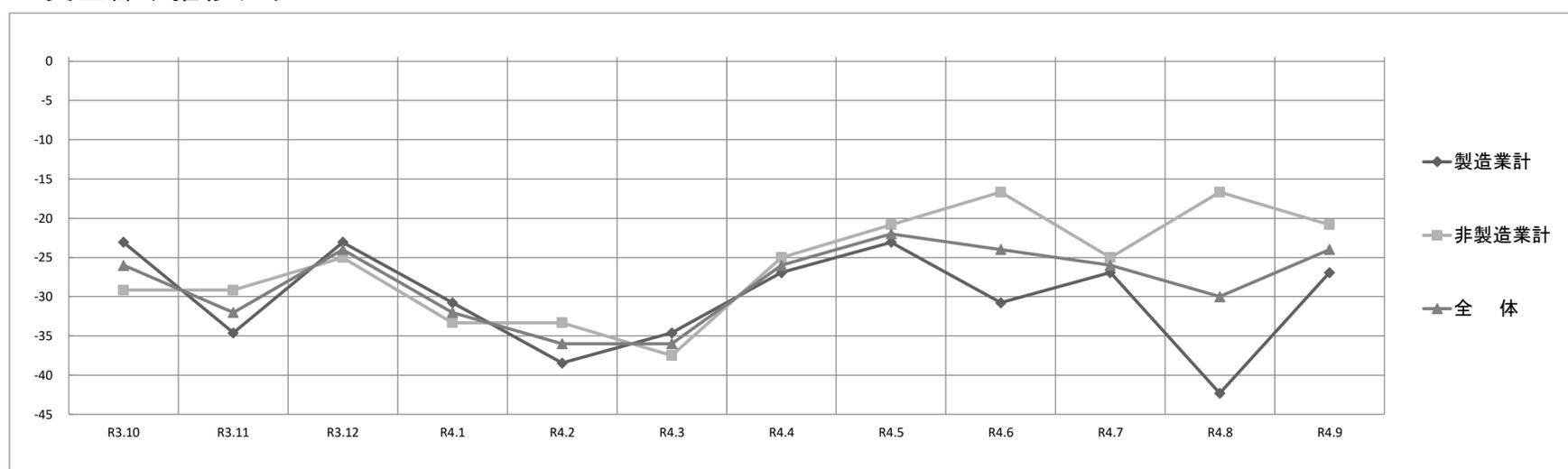


## D I 値推移表 (R3. 10月 ~ R4. 9月期)

### 《資金繰りの推移》

前年同月比	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 15.0	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 23.1	▲ 34.6	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 34.6	▲ 26.9	▲ 23.1	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 42.3	▲ 26.9
卸売業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 25.0
サービス業	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 20.8
全体	▲ 26.0	▲ 32.0	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 22.0	▲ 24.0	▲ 26.0	▲ 30.0	▲ 24.0

### 《資金繰り推移グラフ》



### 《景況の推移》

前年同月比	R3. 10	R3. 11	R3. 12	R4. 1	R4. 2	R4. 3	R4. 4	R4. 5	R4. 6	R4. 7	R4. 8	R4. 9
食料品製造業	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 45.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 20.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 34.6	▲ 11.5	▲ 38.5	▲ 53.8	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 38.5	▲ 46.2	▲ 42.3	▲ 23.1
卸売業	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	0.0
小売業(商店街含む)	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 33.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 50.0
サービス業	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 60.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 45.8	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 33.3
全体	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 14.0	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 48.0	▲ 38.0	▲ 28.0	▲ 30.0	▲ 36.0	▲ 38.0	▲ 28.0

### 《景況推移グラフ》

